

参加費
無料

外国につながりをもつ子どもの学びを支えるための研修会



夜間中学校とは？

公立の中学校で、夜の時間帯に授業が行われる学級のことをいいます。

所属のない外国につながりをもつ

子どもの学びの場と

夜間中学校の役割

夜間中学校がない京都府域において、不登校や外国につながる子どもたちの学習機会の確保は喫緊の課題です。本研修会では、府域の支援者、教育関係者が、夜間中学校の現状や国の施策等について学び、子どもの学びの受け皿について考えます。

2024年 8月28日 水 13:30 ~ 15:30

会場 城陽市国際交流協会（城陽市寺田西ノ口7-4 西邦ビル2階）

講師 岡田敏之 さん
(京都市立洛友中学校 元校長、学びの多様化学校マイスター)

対象 外国につながりをもつ子どもの指導・支援に関わりのある方、
関心のある方
(教育関係者・行政職員、自主夜中・日本語教室等、地域の支援者)

定員 20名

申し込みは
QRコードを
チェック!



主催・問い合わせ

(公財) 京都府国際センター

URL: WWW.KPIC.OR.JP

TEL: 075-681-2500

共催

城陽市国際交流協会

京都府域における 所属のない外国につながるをもつ子どもを取り巻く教育環境

外国につながるをもつ子どもとは？

両親または父母の一方が外国籍の子ども、日本人と再婚した親の連れ子として母国から来日している子ども等、外国に何らかのルーツをもつ子どものこと。日本国籍の子どもも含まれます。

「所属のない」外国につながるをもつ子どもの特徴と環境

1. 10代後半に、学齢期を超えて日本語未習得で来日

- ・母国で9年の教育課程修了 … 高校の受験資格あり
- ・母国で9年の教育課程未修了 … 高校の受験資格なし

子どもの在留資格の許可が下りる時期や学齢期の開始年齢・学校制度の違い等により、来日時に学齢期を超える場合がある。

9年の教育課程を満たすための中学校への編入学

地域によっては就学できないこともあり、高校の受験資格が得られず、高校にまでたどり着けない子どももいます。

2. 一から「一人で」高校受験を目指して勉強

地域のボランティアに週1, 2回、2時間ほど日本語と教科を学んでいる程度で、子どもの学習場所は、府内にはほぼない状況です。

3. 子どもの在留資格の多くは「家族滞在」

就労できない資格のため、「高卒資格（+就職内定）」をもって「家族滞在」から就労資格への変更申請が可能となります。

子どもたちが中学校や高校にたどりつけなければ、日本で暮らしていくための仕事に就くことが、法律上、難しくなります。

4. 子どもの存在が潜在化

学校に通っていないため、文部科学省の調査の対象から外れてしまい数や実態の把握が難しい状況です。来日以降、数年間、どこにも繋がらず、図書館や自宅で友達もなく一人で過ごしていた子どももいます。